

# かいづあつこ 海津敦子新聞

atsukok@abelia.ocn.ne.jp

電話 080-3027-2758  
03-5803-1316(文京みらい・議員控室)  
住所 文京区小石川4-14-24-107

学校、子育て、介護、ご近所等々、気軽にご相談ください。一人で、家族だけで抱えて悩んでいると迷路へ入ることも。あなたの「今」に間に合うように、我が事として解決策を共に考えていきます。ご相談に応じ専門家と連携します。



徹底的に区民目線で区政をチエック!

あなたの「今」に間に合うように 子育て・教育、福祉の専門性をもってより良い文京区を

かいづあつこ 所属委員会 ◆ 文教委員会 / 自治制度・地域振興調査特別委員会 / 議会運営委員会 / 議会広報小委員会 / 意見書等調整小委員会

## 公的窓口一覧

予想もしなかった日々…  
困ったときには相談を!

### 心のこと

東京都自殺相談 0570-087478

【東京都福祉保健局】  
14:00～翌朝5:30(年中無休) ※都内在住・在勤・在学の方向け

LINE相談【相談はLINE@東京】

【東京都福祉保健局】  
15:00～21:30(年中無休) ※都内在住・在勤・在学の方向け

こころの健康相談 0570-064-556

【厚生労働省】  
9:00～12:00・13:00～17:00(月～金) ※全国共通



### お金のこと

生活が困り苦しいとき 03-5803-1216

【生活福祉課相談係(シビックセンター9階)】  
9:00～17:00(月～金 ※祝・休日を除く)

中小企業支援 03-5842-6731

【東京商工会議所文京支部(シビックセンター地下2階)】  
10:30～16:30(月～金 ※祝・休日を除く)

税金・保険料の減免制度 03-3812-7111

【文京区役所代表から各種窓口へ】  
8:30～17:15(月～金 ※祝・休日を除く)

新型コロナウイルスの影響で納税が困難なとき 03-5803-1156

【税務課納税係】 9:00～17:00(月～金 ※祝・休日を除く)

### パートナー等からの暴力

03-5803-1216 【生活福祉課相談係(シビックセンター9階)】

9:00～17:00(月～金 ※祝・休日を除く)

0120-279-889 【DV相談+内閣府男女共同参画局】

24時間(年中無休)

03-5803-1945 【文京区配偶者暴力相談支援センター】

9:00～17:00(月～金 ※祝・休日、年末年始を除く)

03-3812-7149 【文京区男女平等センター相談室】

月10:00～16:00(受付～15:00)、水14:00～20:00(受付～19:00)  
金10:00～20:00(受付～19:00)、(祝・休日、年末年始、全館清掃日を除く)

### こどものこと

児童虐待の相談 03-5803-1109

【子ども家庭支援センター児童相談係(相談専用)】  
9:00～17:00(月～金 ※祝・休日を除く)

189 【児童相談所全国共通ダイヤル】

24時間(年中無休)

教育相談 03-5800-2595

【文京区教育センター総合相談室】  
24時間(年中無休)

いじめ相談 03-5800-2596

### 外国籍の方へ

困ったとき 03-3202-5535

【外国人総合相談支援センター】

9:00～16:00(月～金 ※年末年始・祝祭日及び毎月第2・4水曜日は休館)  
英語・中国語(月～金) / ポルトガル語(月・火・水) / スペイン語(月・火・水)  
インドネシア語(火) / ベトナム語(月・水) / タガログ語(金)

### 体調が悪くコロナ感染が心配なとき

受診相談 03-5320-4592

【東京都発熱相談センター】 24時間(年中無休)



# コロナ禍 誰ひとり取り残さない区政を

## 区はうつ・自殺対策の予算を削減!?

コロナ禍で、仕事を失って経済的な問題を抱えたり、人との繋がりが断たれて孤独感が募ったり、家にいる時間が増えて家庭内暴力に苦しんだり、等々から心を病んでしまう人が増えています。

しかし区は、予算削減の理由として「自殺対策にかかる予算は、過去の実績に基づき必要な経費を計上している」と説明。コロナ禍で、児童生徒の自殺者数は過去最多、他の世代も増加に転じている中、自殺予防に関して「過去の実績に基づく予算計上」というのは、あまりにも危機意識に欠けた予算計上だと言わざるを得ません。

区は、必要があれば予算をつけるという考え方で、区内での自殺が増えたら予算を新たに付けるということなのか。大事なことは、そうならないようにどうするかです。相談窓口の人材を増員したり、支援機関の助成を拡充したり、個々の状況にあった相談・支援を十分に受けられる環境を新年度当初から整備して、予防策を拡充すべきです。

## コロナ禍での終末期

出来ない理由は何もかもコロナのせい!?

多くの病院等は、感染予防を最優先に面会を一律に制限していて、会えたとしてもわずかな時間です。感染防止対策は、重要なことではあります。しかし、医学的に、命の時間がわずかであることがわかっても「面会」できないこと等には大きな疑問がわきます。人生の幕を下ろすときに、大切な人に見送られることすらできないのは、人の命の尊厳よりコロナ感染対策のほうが優先されてるようで、命を大切にするための感染対策であるはずなのに、と矛盾を感じます。

家族は、退院させて在宅で最後を家族で見送りたい、と思っても、どのような「覚悟」をすればよいのか迷うものです。終末期を在宅介護で進めるためには、どのようにすればよいのでしょうか。

住み慣れた場所で、最後の時を迎えるには、夜間(深夜)や早朝の対応という点でもまだまだ不十分です。家族介護を前提にした在宅介護にしないためにも、介護現場の働き手不足は深刻です。介護者の確保には、介護職の報酬などの待遇面をこれまで以上に手厚く、一人あたりの担当数を減らすなど、現場の声に耳を傾けた実態的な策が必須です。

## 困った時に安心して頼れる ～断らない相談支援を!～

行政への相談はかなりハードルが高いもの。それだけに行政は、見えていない困窮や孤立があることを常に認識すべき。さらに、一人の個別事例も潜在的には他の人にも当てはまるかも知れない、「わが事」につながるかもしれないと考えて相談にのると同時に、問題解決につながるよう制度・施策を生み出すことが必要です。

相談に来た人は様々な問題を抱え窓口を訪れます。それだけに、「〇〇の相談はいいけれど、他の相談はここでは受けられません」という対応はプロの仕事ではありません。求められるのは、相談で見えてきた複合的な問題も受け止め、他機関とつながり、動く「断らない相談支援」です。縦割り行政でたらい回しにするなど言語道断。

誰ひとり取り残さない地域社会を創るには、「公助」として「断らない相談支援」を根付かせ、本人の希望や願いに寄り添い、ともに動く「伴走型支援」が欠かせません。「公助」があってこそ「共助」「自助」が可能となる社会になるのだと思います。

## 外国籍の方への支援・配慮

文京区の人口は約22万6000人。外国人住民は約1万人です。当然、コロナ禍で悩みや不安を抱えている方もいます。日本語が不自由なく話せる方たちばかりではありません。

相談窓口では、英語での対応は主にされていますが、多言語への対応はこれからです。様々な相談を受ける行政情報センターでは、英語以外にも、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語に対応しています。さらには、対応可能時間が限られますが、ベトナム語、タガログ語、タイ語、フランス語、ネパール語、ヒンディー語、ロシア語、インドネシア語での対応をしています。なぜ、横ぐし刺して同じ対応をしないのか。多言語への対応を、区が実施するすべての相談で受けられるように求めています。

小石川図書館と竹早公園の一体的整備

持続可能な社会、未来を見据えた整備を



老朽化が進む小石川図書館。バリアフリー化など、検討委員会（文京区立図書館で改修等に伴う機能向上委員会）でまとめられ、これからの時代のより良い図書館のあり方が示されると共に、隣接する竹早公園との一体化整備を行う方向です。

一方、脱炭素や新しい生活様式で公園の必要性が増していることを踏まえると、竹早公園の広さ、テニスコートの数は現状維持が望まれます。

あり方の議論のほとんどはコロナ禍の前で、かつ、グリーン社会の実現が打ち出される前にまとめられた報告書です。想像の射程距離を伸ばし、30年後、50年後の社会を見据えたより良いあり方の整備が不可欠です。

コロナ禍で公園の価値が再認識され、利用者が急増しています！



1:3には遠く及ばず...

SDGs, すなわち、持続可能な開発目標とは、「人間が地球ですつと暮らしていけるような世界をつくるための目標」です。  
国の施策でも、都の施策でも、「誰ひとり取り残さない」という言葉がいたるところで使われています。しかし、文京区は、区長のメッセージ、答弁、区の施策の中にも「頑なに」注意深く、「誰ひとり取り残さない」という言葉を使わないようにし続けています。

支援 SDGs 誰ひとり取り残さない

理由として、策定する計画は各々の目的、性格が異なることから一律に「誰ひとり取り残さない」とは書けないということです。「持続可能かどうか」を決定づける考え方の原則が「誰ひとり取り残さない」ことだと国連加盟国で決めたのです。文京区が使わない理由にはなりません。  
文京区の「誰ひとり取り残さない」姿勢を、区民が目や肌で実感できるように求めています。

障害 「善意」といって済め 障害のある子への就学通知を 期限までに出さない教育委員会

内閣が制定した政令に基づき、就学通知は1月31日までに出すことになっています。小学校入学を控える13人の子どもに就学通知（入学決定の通知）を出していません（2月28日現在）。3月中旬になりやっと全員に通知が送られました。  
理由は、保護者が「言うことを聞かないから」というのが本音。「子どものためには、教育委員会が判定した入学先にするのが良い」と考える善意で動いているのでしょうか。しかし、入学準備もできない状況は保護者を追い詰めるだけ。それはもはや、「お子さんのため」という善意を言い訳にした保護者への嫌がらせ、いじめではないかと懸念されます。

学校改築後のトイレ数

	男性	女性
誠之小	54 (内大便器21)	43
明化小	40 (内大便器16)	25
柳町小	41 (内大便器16)	33

女性トイレの方が待ち時間が長い。そうしたことを想定し設計すれば、「公共施設・学校」で、利用者目線のトイレが実現！

誰かが立ち寄る空間「トイレ」。限られた休み時間や、災害時には避難所になることも考えると、学校の女性トイレの数を注意深く設計する必要があります。  
男性用トイレには個室より小便器が多く、女性に比べて列を作る必要がありません。災害時にはトイレの数が足りず、長蛇の列ができることから、トイレに行く回数を減らすため水分補給を控えてしまいエコノミークラス症候群になる危険も。災害時、個室の数は男女比で1:3が理想。「快適なトイレは贅沢ではなく、命を守るために必要」と指摘されています。50年は活用することになる学校施設。理想的なトイレの設置を求めます。

理想は1:3 男 女

学校 子どもの学ぶ場所がないがしろに

教室不足が常態化!? 本を並べただけの図書室...これが「適切な対応」!?

教室不足の懸念に対して区は「これまでも、年少人口の動態や児童数等を注視し、その結果をもとに、教室対策の検討を行ってまいりました。今後も適切に対応してまいります。」と繰り返してきました。しかし...

【誠之小学校】新築校舎の図書館やホールを早々に教室に転換か?

誠之小の新1年生は5学級。一期工事が終わりますが、新校舎で各学年に用意している教室は4学級分。5学級の学年が増えていくと、子どもたちの「学習環境に必要なから整備した」はずのホールや図書室等が教室に転用される可能性は高い状況。設計の見通しの甘さを繰り返さないためにも検証が必須です。

【9中・音羽中】35人学級を超える学校運営が横行?

文京区は、小学校1・2年生、中学1年生は35人学級としています。9中・音羽中の1年生は35人学級で、本来なら「4学級」。ですが「3学級」編成にしています。ここ数年、いくつかの学校で、35人学級を守れない学校運営が続いています。理由は「教室不足」。校内のどこかを教室に転用する工事が必須です。都は、新しい生活になじめなくなる「中1ギャップ」を防ぐためにも35人学級を導入しました。すべての学校が35人学級を遵守して学級編成できる環境整備が急がれます。どの学校に入学しても、1年生は35人学級での授業を受けられるようにすべきです。



【礪川小学校】教室確保 本当に大丈夫?

礪川小通学区域には今後約800世帯が増加。教育委員会は、周辺マンション建設の動向も加味して学級数推計しているから「大丈夫」としています。が、情報公開しても推計の根拠になる数字はありません。また、学級数分の教室を確保できれば「大丈夫」なわけではありません。多様な教育を保障するための少人数学習室や教員増に十分対応した職員室等も整備できてこそ「大丈夫」なのです。

【本郷小学校】学校図書館がない

学校図書館は学校図書館法で「設置しなければならない」ものです。本郷小は平成10年に開校。が、平成29年には教室を増やすために図書館をなくし、オープンスペースに本を置き「図書コーナー」を設置するのみです。学校図書館は「学校の心の拠点」。本などを分類、整理、保管して子どもの「読書センター」「学習・情報センター」として、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現する役割を担います。図書館がなければ、図書館で授業を行うことも、子どもが興味関心に応じて本を探し出すこともできません。教室確保と学校図書館の確保は、どちらかではなく、両方整備するのが教育委員会の責務です。学校図書館がある学校との教育格差は、先生たちの努力で補える内容ではありません。早急な改善が不可欠です。